



改良した農機で水稻育苗を行う高橋さん(左)と
近隣農家ら(神奈川県相模原市で)

農機修理請け負いも 自宅で水稻育苗8000枚

神奈川県・相模原市 高橋一己さん

【神奈川県・相模原市】
JA相模原市の組合員、高橋一己さん(67)は、米作りと金属加工で地域農家から頼られ

る存在だ。高齢化や後継者不足などで耕作できなくなった水田を請け負い、今では合計8畝を耕作。金属加工の

仕事の経験を生かし、自宅に設けた工房では農機の修理や部品の交換を行っている。

近隣の農家は「メーカーで対応できない場合も工夫して修理してくれるので、助かっている。地域にいないなくてはならない人だ」と話す。5月上旬には、市内の高橋さん宅に近隣

の農家ら14人が集まり、水稻苗の播種(はしゅ)作業を行った。

以前、育苗箱への土入れなどは手作業で、数日がかかりの大仕事だった。請け負う水田が増えるにつれ、必要な水稻苗の枚数も増加。

高橋さんは「このままではやりきれない」と既存の農機に手を加え、土入れから播種、水まきまで自動で行えるよう改良。今では8000枚を半日でまき終えるという。

高橋さんは「自分のアイデアがうまくはまったときはうれしい。地域農業を守るためにも、仲間たちと共に技術を生かし、作業効率の優れた農業を目指していきたい」と話す。